

校番	201・125	学校名	広島中学校・広島高等学校	校長氏名	吉村 薫	全日制課程	本校
----	---------	-----	--------------	------	------	-------	----

1 ミッション(地域社会における自校の使命)

全人教育を実現し、本県教育を先導する学校

2 ビジョン(使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

挑戦し続ける生徒・学校:学んでよかったと思える学校

- ① 知性・感性・意志のバランスがとれた生徒を育成する学校 ～ 全人教育を実現する学校 ～
 【高い知性】学校は学びの場 ～ 深い知識・技能を持ち、批判的思考力や豊かな創造力を求め、学び続ける生徒の育成 ～
 【豊かな感性】学校は自らを広げ深める場 ～ 他者を思いやり、多様な考えや文化を理解し協働できる生徒の育成 ～
 【強い意志】学校は自らを高める場 ～ 高い志を持ち、主体的に学び行動する生徒の育成 ～
- ② 果敢に挑戦し続ける生徒・学校 ～ 全生徒の進路希望を実現する学校 ～
- ③ 全教職員の資質・能力向上を推進する学校 ～ 人材育成プログラムが機能している学校 ～

3 環境分析

- ① 知性・感性・意志のバランスがとれた生徒を育成する学校 ～ 全人教育を実現する学校 ～

【高い知性】学校は学びの場 ～ 深い知識・技能を持ち、批判的思考力や豊かな創造力を求め、学び続ける生徒の育成 ～

《生徒が主体的に学ぼうとしている》平成29年度授業満足度調査の生徒の自己評価は、中学校90.7%(90.6%)、()内は前年度数値、以下同様)、高等学校87.9%(87.4%)、校内全体で89.0%(88.7%)である。主体的な学び(能動的な、学習者基点の、深い学び)を進めていくため、目標の明確化、知的好奇心の刺激等を意識した授業づくりをさらに進めていく。特に、一つ一つの学習活動が何を目的としたものであるかを明示し、見通しのもてる授業を構築していくことに加え、予習、授業、復習のサイクルを意識させ、生徒自身に力が付いたことを実感させる取組等を進めていく。また、授業満足度調査結果について、授業評価及び自己評価の低い生徒を抽出し、面談等を通して個別の分析を行い、授業改善に生かしていく。

《SGH・ESDで持続可能な社会づくりの担い手として批判的思考力を身に付け、新たな価値を創造しようとしている》平成29年度授業満足度調査における「論理的思考力・表現力」に関する質問項目の平均値は、中1:96.1%(97.6%)、中2:95.2%(94.6%)、中3:93.2%(95.7%)、高1:94.1%(94.2%)、高2:95.2%(86.3%)、高3文:91.7%(94.7%)、高3理:89.5%(90.1%)であり、目標値の90%を概ね上回ることができた。また、同窓生アンケートで、本校の「ことば科」「卒業研究」について、役に立っていると感じている卒業生は、それぞれ、95.0%、94.0%であり、大学のレポートやディスカッションなどのグループワーク、授業で役に立っていると実感しているようである。SGH及びユネスコスクールとして中学校の「ことば科」と、高等学校の「総合的な学習の時間」の連携を強化し、新たな価値を創造する生徒の育成を目指していく必要がある。

【豊かな感性】学校は自らを広げ深める場 ～ 他者を思いやり、多様な考えや文化を理解し、協働できる生徒の育成 ～

《リーダーを中心とした主体的な活動を通して、互いのよさを認め、協働できている》中学校では、遠足、清掃、生徒会活動等において、中3生を各グループのリーダーとした縦割り活動を取り入れている。中3生には、リーダーとしての自覚や責任を持たせ、中1・2生の手本として活動できるように生徒会執行部を中心にリーダー会や各行事の打ち合わせ会を随時行っている。高校では、生徒会執行部、各行事の実行委員会の生徒たちが主体的に活動できる力を育むことを目標として取り組んでいる。各行事の新しい企画や生徒のより良い生活など生徒たちの自主的な声をしっかり受け止め可能な限り実現していくようにしている。少しずつではあるが、県広のよき伝統を積み上げたいという思いを表現する姿がみられる。文化祭94.4%、運動会97.0%と目標数値を大幅に上回る数値が出ている。また、「よくできた」割合が7～8割であることから、実行委員やリーダーを中心とした生徒の主体的な活動や縦割り活動などにおいて、仲間と協働し、主体的に取り組もうという雰囲気が出てきたと考える。

《寄宿舎で、他者を思いやり、協働して運営している》集団生活において、他者を思いやり、協働して自治活動を行うことは、寄宿舎の安心安全な生活の基盤となる。「思いやり」「気づかい」を持って生活できているかとの問いに、97.1%の生徒が肯定的な回答をしている。一方で行事や委員会活動においては先輩任せになっている傾向がある。寄宿舎生活の全般を有効活用していくことは、グローバル化社会において他者を思いやり、多様な考えや文化を理解し協働できる生徒の育成において最適であると考えられる。

【強い意志】学校は自らを高める場 ～ 高い志を持ち、主体的に学び、行動する生徒の育成 ～

《生徒が心身の自己管理ができている》学校保健に関する平成29年度アンケート調査では、「日頃から、自らの心と体の健康に注意を払いながら生活している」と回答した生徒が90.0%(91.9%)となり、90%以上を継続している。健康管理の取組の一つとして保健だよりによる保健指導を平成29年度も行った。「保健だよりが自己の健康管理に役立った」と回答した生徒は、84.9%(86.8%)であった。今後も生徒の健康管理の啓発に有効活用していきたい。また、「学校に学習や生活等について、相談できる相手がいる」と回答した生徒は、93.4%(94.1%)であった。「学校に学習や生活等について、相談できる先生がいる」と回答した生徒は76.5%(74.6%)となっている。ほとんどの生徒は相談できる相手があり、相談できる先生がいる生徒の割合も微増している。校種や学年ごとの分析、さらに個人の状況を見ていき、実態に合わせた取組を行うことで結果を活かしていく必要がある。

《SGHとして、グローバル化社会における志を高め、素養(英語力等)を身に付けている》平成29年度の高1学年の英語検定取得状況は、242名中196名、学年の81.0%が準2級以上を取得し、目標値の80%に達した。また、2級以上を取得した人数の割合は46.7%であり、こちらも目標値を達成している。SGHにおける海外研修をはじめとする事業で、留学生等との交流の場面では、英検2級を取得していることが望ましい。高2においては、グローバルコース生徒は全員が英検2級以上取得を、高2全体で20名以上が英検準1級の取得を目標に生徒へ働きかけ、保護者への啓発も必要である。

《生徒が「けんひろマナー5か条」に基づき、主体的に決断し実行できている》「けんひろマナー5か条」に基づき、主体的に決断し、実行できると回答した生徒は 85.4%であり、目標値を達成している。「けんひろマナー5か条」の存在が、あいさつ運動等を通じて、本校の指針の一つとなりつつあることがわかる。また、今年度は中学校生徒会が主体的にあいさつ運動を1回増やして実施した。一方、教職員の肯定的な評価は 78.2%であった。昨年と比べるとその差は小さくなっているものの、依然として生徒の評価とは開きがあるうえ、学校行事の結果と比較すると、「よくてきた」割合は 16%の生徒に過ぎず、実態として、マナーは守っているが、主体的に決断し、実行しているとは言い切れない部分があることを正直に表現していることがうかがえる。

② 果敢に挑戦し続ける生徒・学校 ～ 全生徒の進路希望を実現する学校 ～

《生徒の高い志望が維持されている》平成 29 年度高3生のTKI志望者数は、高1年次(1月)⇒2年次(1月)⇒3年次(11月/受験)として、東大 20⇒18⇒17/受験 15 名、京大 18⇒16⇒15/受験9名、医学科 19⇒12⇒12/受験 11 名と推移し、TKI全体の維持率は 77.2% (41.0%)であった。更に、難関大学以上の志望者数は 120⇒130⇒133/受験 82 名、SGU等(広大以上)志願者数は 194⇒189⇒175/受験 141 名と推移し、維持率はそれぞれ 110.8%(75.8%)、90.2%(83.0%)であった。例年の取組に加えて、TKI個別添削を講座形式に変更したことから、生徒間の志望校に向けた結束力が高まり、模試段階の志望が維持されていると考えられる。本校で行っている高い志望を維持させる取組は一定の成果を出していることから、低学年次からTKI志望者を増やすための取組こそが重要である。

《生徒の学力が向上している》第1回から第3回の実力テストにおける平均偏差値が中1では 57.1⇒60.5⇒59.5、中2では 60.4⇒60.7⇒59.9 と推移した。中3では、第1回から第2回において、60.1⇒57.4 となった。中2はほぼ横ばいの傾向を示したが、中1・中3では回ごとに数値が上下する結果となった。偏差値 60 以上の生徒は中1で 47⇒93⇒79 人、中2で 85⇒84⇒83 人、中3で 89⇒60 人となった。中1・2は目標を達成したが、中3では目標を大きく下回る結果となった。国英の底上げに力を入れてきたが、結果に表れてこなかった。今後とも、中位層を含め、下位層の底上げに取り組みなくてはならない。高校1年の初期指導として、授業の受け方、予習や復習方法を含めた家庭学習の仕方、課題の取組方法等を重点的に指導した。また高い志望を持たせるため、SGU 集会、短期入寮(学習合宿)、ハイレベル講座等を計画的に実施した結果、1月の進研実力テストで、国数英総合偏差値 65 以上の人数が 105 人と達成目標 110 人を下回ったが、一方で 50 未満の人数は 12 人と、目標値 20 人以下を達成し、底上げがしっかりとできた。高校2年では、高1の時から課題を徹底的に提出させる取組や、検査や小テストの放課後の追試験・追指導の取組を継続してきたが、偏差値 50 未満の生徒は固定化しつつあり、継続課題である。一方、成績上位層には修学旅行前から最難関大集会、旅行後にはTKIの指導を前倒して開始するなど受験を意識した早期の取組を継続している。偏差値 75 以上及び 65 以上の層も目標を達成した。今後も、下位層へは丁寧な指導、上位層へは早期からの計画的な指導を継続する。

《SGU 等合格者数が高い水準を達成している》平成 30 年度入試において東京大学7名、京都大学5名、国公立大学医学部医学科5名と最難関大学 15 名以上の合格を達成した。これらを含めた難関国立大学は 46 名(39 名)、広島大学は 41 名(45 名)により、SGU(難関国公立大学)等合格者数は 85 名(80 名)であった。目標人数に対して、広島大学合格者で 4 名、SGU等合格者数で 10 名下回った。これは例年以上に、SGU 等レベルの第一志望を貫く生徒が多かったことによるが、取りこぼしもいくつか見られた。最上位層を支える体制はかなり仕上がったと考えられるので、日々の授業の内容を含めて、その次の学力層を伸ばす手立てが必要である。

③ 全教職員の資質・能力向上を推進する学校 ～ 人材育成プログラムが機能している学校 ～

《教職員が「学びの変革」に向けた授業力向上に組織的に取り組んでいる》平成 29 年度授業満足度調査の授業評価「全体的に授業に満足している」という問いに対して肯定的回答をした生徒の割合は中学校 95.6%(95.6%)、高等学校 92.6%(91.9%)と目標を上回った。また、特に高い評価をした生徒の割合は中学校 66.9%(61.7%)、高等学校 54.8%(51.9%)と目標を大きく上回った。このことは、「主体的な学びを促す高い水準の授業づくり」に係る各教科の組織的な取組が効果的であったからだと考える。多くの教科で授業展開に工夫や改善がなされており、高い授業評価を維持すべく、今後とも「主体的な学びを促す高い水準の授業づくり」を組織的に推進していく。そのために、教科主任会議を軸に各教科や中高接続の連携をさらに密にし、定例化した教科会の中で教科の特性に応じた具体的な授業展開の工夫を共有し、ベテランの授業の知恵を若手が学ぶ等の協働的な取組をさらに進める必要がある。

《教職員が学校活性化(業務改善)に向け組織的に取り組んでいる》平成 29 年度の業務改善に係るアンケート(第3回)結果によると、「生徒と向き合う時間が確保できている」と感じる教職員の割合が、中学校では 54.5%、高等学校では 77.5%という結果であった。時間外・持ち帰り状況において、1週間あたりの時間数の合計の平均は、中学校 28.8 時間、高等学校 28.2 時間であった。内容が重複するものは合体させたり、効果の少ない業務を整理したりしてスクラップを進めることを通じて業務改善を行うことが必要である。

4 目標の設定

学校経営目標		※ 評価結果・アンケート結果は肯定的な評価を%で示し、 その中で特に高い評価を < >で示す。					担当部 等
達成目標	評価指標	実績値		目標値			
		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
① 知性・感性・意志のバランスがとれた生徒を育成する学校 ～ 全人教育を実現する学校 ～							
【高い知性】学校は学びの場 ～ 深い知識・技能を持ち、批判的思考力や豊かな創造力を求め、学び続ける生徒の育成 ～							
生徒が主体的に学ぼうとしている (自律的な学習態度) (批判的な思考力等の育成)	授業満足度調査結果 (自己評価) (主体的に学ぶ生徒の育成)	88.7%	89.0%	90%	90%	90%	教務
	図書館の貸し出し冊数 (1人当たり平均値)	14.3 冊	10.7 冊	10 冊	10 冊	10 冊	

	中学校生徒学習時間調査結果(学年目標達成率)	課業日 95.6% 休業日 97.2%	課業日 92.1% 休業日 93.2%	課業日 90% 休業日 90%	課業日 90% 休業日 90%	課業日 90% 休業日 90%	中1 ～ 中3
SGH・ESD で持続可能な社会づくりの担い手として批判的思考力や論理的思考力・表現力を身に付け、新たな価値を創造しようとしている	授業満足度調査結果 卒業生へのインタビュー (ことば科及び卒業研究の内容)	中1 : 97.6% 中2 : 94.6% 中3 : 95.7% 高1 : 94.2% 高2 : 86.3% 高3文94.7% 高3理90.1% 高3 新たな価値 86.6% 卒業生 ことば科 100% 卒業研究 75%	中1 : 96.1% 中2 : 95.2% 中3 : 93.2% 高1 : 94.1% 高2 : 91.2% 高3文91.7% 高3理89.5% 高3 新たな価値 81.7% 卒業生 ことば科 95% 卒業研究 94%	85%	90%	90%	研究 推進 教科

【豊かな感性】学校は自らを広げ深める場 ～ 他者を思いやり、多様な考えや文化を理解し協働できる生徒の育成 ～

リーダーを中心とした主体的な活動を通して、互いのよさを認め、協働できている	行事での生徒、教職員、来校者アンケート調査結果	97.7%	97.1%	90%以上	90%以上	90%以上	生徒指導
寄宿舎で、他者を思いやり、協働して運営している	寄宿舎生徒アンケート調査結果	93.7%	99.4%	85%	88%	88%	舎務

【強い意志】学校は自らを高める場 ～ 高い志を持ち、主体的に学び行動する生徒の育成 ～

生徒が心身の自己管理ができている (自律的な生活態度)	生徒の心身の自己管理と教育相談に関するアンケート調査結果	91.9%	90.0%	90%以上	90%以上	90%以上	保健 生徒指導
	年間皆勤賞生徒人数の割合	中 38.8% 高 32.7%	中 35.7% 高 34.2%	中高 33%以上	中高 33%以上	中高 33%以上	保健 体育
SGH として、グローバル化社会に対する志を高め、素養(英語力等)を身に付けている	生徒アンケート調査結果 (将来留学や、仕事で国際的に活躍したいと考える人数の割合)	高1 72.2% 高2G 65.6%	高1 67.8% 高2G 73.1%	高1 全員 60%以上 高2G コース 70%以上	高1 全員 65%以上 高2G コース 80%以上	高1 全員 65%以上 高2G コース 80%以上	SGH 委 高1 高2
	英語検定の合格人数の割合(ただし、準1級は合格人数)	中3 準2級以上 38% 3級以上 95%	中3 準2級以上 53.1% 3級以上 94.3%	中3 準2級以上 30%以上 3級以上 100%	中3 準2級以上 35%以上 3級以上 100%	中3 準2級以上 35%以上 3級以上 100%	進路 指導 英語
		高1 準2級以上 76.6% 2級以上 42.3% 高2 2級以上 55.8%	高1 準2級以上 81.0% 2級以上 46.7% 高2 2級以上 67.9% 準1級以上 16名	高1 準2級以上 80% 2級以上 33% 高2 2級以上 45%	高1 準2級以上 80% 2級以上 33% 高2 2級以上 50% 準1級以上 20名以上	高1 準2級以上 80% 2級以上 33% 高2 2級以上 50% 準1級以上 20名以上	高1 高2 英語
生徒が「けんひろマナー5カ条」に基づき、主体的に決断し実行できる	1・2学期末での生徒、教職員、アンケート調査結果	86.3%	85.4%	80%以上	85%以上	85%以上	生徒指導

② 果敢に挑戦し続ける生徒・学校 ～ 全生徒の進路希望を実現する学校～

生徒の高い志望が維持されている	第3回全国模試志望校維持人数の割合(学年の最終の模擬試験)	高1 84.4% 高2 82.6% 高2 89.2%	高1 81.4% 高2 93.4% 高2 97.3%	90%以上	90%以上	90%以上	進路 指導 高1 ～ 高3
生徒の学力が向上している	中学校第2回実力テスト結果 全国偏差値 60 以上人数	中1 79人 中2 55人 中3 80人	中1 93人 中2 84人 中3 60人	中1 65人 中2 75人 中3 80人以上	中1 70人 中2 75人 中3 80人以上	中1 70人 中2 75人 中3 80人以上	進路 指導 中1 ～ 中3

	高校第3回全国模試偏差値 (学年の最終記述模試)	SS75以上 高1 20人 高2 25人 SS50未満 高1 8人 高2 25人	SS75以上 高1 23人 高2 25人 SS50未満 高1 12人 高2 19人	高1・2生徒の人数 SS75以上 25人以上 50未満 20人以下	高1・2生徒の人数 SS75以上 25人以上 50未満 20人以下	高1・2生徒の人数 SS75以上 25人以上 50未満 20人以下	進路指導 高1 高2
SGU等合格者が高い水準を達成している	SGU等(医学部医学科を含む)国公立大学合格者数	難関大等 80名 (最難関大 13名、広 島大45名 を含む)	難関大等 85名 (最難関大 17名、広 島大41名 を含む)	90名以上 (最難関 大10名以 上、広島 大45名以 上を含む)	95名以上 (最難関 大15名以 上、広島 大45名以 上を含む)	110名以上 (最難関 大20名以 上、広島 大50名以 上を含む)	進路指導 高3

③ 全教職員の資質・能力向上を推進する学校 ～人材育成プログラムが機能している学校～

教職員が「学びの革新」に向けた授業力向上に組織的に取り組んでいる	授業満足度調査結果 (授業評価) 〈「そう思う」回答〉	93.4% 〈55.2〉	93.8% 〈59.8〉	90% 〈45%〉	90% 〈50%〉	90% 〈50%〉	指導教諭 教務 教科主任 主任会 校務運営 管理職
教職員が学校活性化(業務改善)に向け組織的に取り組んでいる	教職員アンケート結果	中 70.1% 高 79.2%	中 70.9% 高 78.3%	80%	85%	85%	

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
① 知性・感性・意志のバランスがとれた生徒を育成する学校 ～ 全人教育を実現する学校 ～			
【高い知性】学校は学びの場 ～ 深い知識・技能を持ち、批判的思考力や豊かな創造力を求め、学び続ける生徒の育成 ～			
生徒が主体的に学ぼうとしている (自律的な学習態度) (批判的な思考力等の育成)	主体的な学びを推進するため、授業目標を明確にし、授業に対する自己評価を上げていく取組を行う。生徒が発問について探究し、学んだ成果を実感できる授業スタイルや、生徒自身に目標設定させ、自律した学習者を育成すること等により、知的好奇心を刺激する。第1学期末に生徒に対するアンケート等を実施し、第2学期に向けた分析を行い、授業改善を図る。	教科主任会議で「主体的な学び」を促す「高い水準の授業づくり」の推進に組織的に取り組むとともに、各教科のきめ細かな指導を徹底させるため、生徒に対してアンケート調査等を実施し、教科会において授業改善に向けた分析を行う。	教務
	批判的思考力等を育てるため、図書館の貸出し冊数の目標値を10冊とし、中1は15冊、中2は12冊、中3は10冊、高1は8冊とする。図書委員会活動の活性化を図り、図書だよりの発行、本に親しませる取組、読書状況データ公表等の従来からの活動を充実させる。また、教職員による書評集「県広生の99冊」を新たに活用する。	批判的思考力等を育てるため、「時を越えて読み継ぐ本」「西岡文庫」「矢原文庫」を核に、中学校・高等学校の間に読んでおくのが望ましい図書として、教職員による書評集「県広生の99冊」(改訂版)を活用した啓発を行う。	
	主体的に学ぶ生徒を育成するためには、自律した家庭学習習慣を確立する必要がある。中学校第1・2学年は、家庭学習時間の目標値を課業日1.5時間、休業日2.0時間以上と設定する。また、中学校第3学年は、課業日2.0時間、休業日3.0時間以上と設定する。年間5回の調査を実施し、学級担任や教科担当者の指導に生かしていく。	各学年で設定した家庭学習時間を確保しながら、授業とのリンクを図ることで、生徒に主体的に学びを促進させる。その際、各教科における課題のあり方などについても、各教科部会で検討するなどして、家庭学習の質を高めていく。	中1 ～ 中3
SGH・ESDで持続可能な社会づくりの担い手として批判的思考力や論理的思考力・表現力を身に付け、新たな価値を創造しようとしている	SGH及びユネスコスクールとしてESDを推進する。生徒が「中・ことば科」、「高・総合的な学習の時間」において、「批判的思考力」、「論理的思考力・表現力」に係る学習活動で、それらの力が高まったと実感できるような教材の工夫や、場の設定をしていく。また、学年間や校種間の連携を深め、つながりを意識しながら学習指導及び研修を進めていく。	SGH及びユネスコスクールとして、ESDを推進する。授業等で身に付けた「批判的思考力」、「論理的な思考力・表現力」を活用して、ことば科や卒業研究に係る総合的な学習の時間を中心に、「持続可能な社会づくり」に係る取組を校内外に発信する。	研究推進 教科

【豊かな感性】 学校は自らを広げ深める場 ～ 他者を思いやり、多様な考えや文化を理解し協働できる生徒の育成 ～			
リーダーを中心とした主体的な活動を通して、互いのよさを認め、協働できている	生徒会役員会及び専門委員会の連携を密にし、各行事において、行事の計画・準備段階で委員会担当者と学年担当者による合同会議を実施する。また、中学校では、さらに縦割り活動の内容を充実させる。	生徒が学校行事において、目的を理解し主体的に企画・運営・参加できるようにする。中学校では、縦割り活動の充実を図る。	生徒指導
寄宿舎で、他者を思いやり、協働して運営している	寄宿舎生徒委員会を各学期3回以上開催する。機会あるごとに、自治活動の主体的な参画を促すとともに、他者に対する思いやりのある行動について啓発する。	集団生活において自治活動の重要性を理解させながら、他者を思いやり協働的な活動ができるよう啓発活動を行う。委員会だけでなく、運営委員会の活動を充実させ、各委員会活動の活動状況を確認し改善を図る。	舎務
【強い意志】 学校は自らを高める場 ～ 高い志を持ち、主体的に学び行動する生徒の育成 ～			
生徒が心身の自己管理ができています (自律的な生活態度)	保健だよりや学級活動等を利用して、心と体の健康管理を働きかける。生徒の心身の健康管理を支援するため、職員研修と委員会活動等を充実させる。	心身の健康に関する特別活動を行い、生徒の健康管理を支援するとともに、職員研修等を通じて、生徒の心身の健康保持支援のための力量をより一層身につける。	保健 生徒指導
	生徒会及び風紀委員会に働きかけて、各学期に1回ずつ遅刻防止期間を設けて啓発活動を行う。	生徒会及び風紀委員会に働きかけて、自律的な生活態度を身に付けていくための各種の啓発活動を行う。	保健体育
SGHとして、グローバル化社会における志を高め、素養(英語力等)を身に付けている	教職員に対して本校SGHの構想・目標について理解を求めため、研修会を行う。生徒がグローバル人材に必要な素養を理解し、その素養を身に付けようとする態度を育てるため、効果的な講演会、課題研究を実施する。	教職員・生徒がグローバル人材に必要な素養について理解し、生徒が課題意識や当事者意識を持って、「持続可能な社会の構築」に貢献したいと考えるよう促す。	SGH委員会 高1 高2
	SGHとして、英語力を高めるために、英語科と連携し、学期の始めと終わりに、実用英語技能検定の受検状況や取得級の把握を行い、受検に対する意欲喚起、目標設定や受検期日・方法のアドバイス等を継続して行う。	SGHとして、英語力を高めるために、英語科と連携し、学期の始めと終わりに、実用英語技能検定の受検状況や取得級の把握を行い、受検に対する意欲喚起、目標設定や受検期日・方法のアドバイス等を継続して行う。	進路指導 英語科
	高1の英語検定取得においては、SGHにおける海外研修をはじめとする事業の参加要件として、英検準2または2級を取得していることを必須とし、高2グローバルコースにおいては、全員が英検2級以上取得を目標に生徒へ働きかけ、保護者への啓発も行う。	SGU入学を目指すには、英語検定取得が有利である。SGH事業の参加要件として、高1は英検準2級以上、高2のグローバルコース生徒は2級以上を取得することを目標とし、学年会と英語科が連携し、受検を促す。	高1 高2 英語
生徒が「けんひろマナー5カ条」に基づき、主体的に決断し実行できる	生徒会役員会及び部活動部員を中心とした朝のあいさつ運動を学期に1回実施する。生徒主体の活動の趣旨を理解させながら、生徒の規範意識の向上に向け、計画的に実施する。「けんひろマナー5カ条」を周知し、実動する体制をつくり、各種の啓発活動を行う。	生徒会執行部と各委員会が連携する組織的な生徒会活動の趣旨を理解させ、教育活動全体を通して、自然で積極的な挨拶や自律的な生活態度を身に付けさせる各種の啓発活動を行う。	生徒指導
② 果敢に挑戦し続ける生徒・学校 ～ 全生徒の進路希望を実現する学校 ～			
生徒の高い志望が維持されている	集会や進路行事、面談等を継続的に実施する。保護者に向けた情報提供も行う。特に、グローバルコースに在籍する生徒には、SGUの中でも最難関、難関のレベルを目指させるために、TKI集会の他、難関大集会・広大集会等を含めたSGU集会を定期的実施する。2年後半からのTKI指導を教科面・メンタル面の支えであると意識し、高い志望を貫けるよう指導する。	生徒の進路意識の向上を図りつつ、高い進路目標を設定し持続できるように、集会や進路行事、面談等を継続的に実施する。保護者に向けた情報提供も行う。グローバルコースに在籍する生徒にはSGUの中でも最難関、難関のレベルを目指させるために、SGU集会を定期的実施する。TKI指導を教科面・メンタル面の支えであると意識し、高い志望を貫けるよう指導する。	進路指導 高1 ～ 高3

生徒の学力が向上している	<p>実力テストを年間3回実施し、結果を分析して生徒の学習の状況や課題を明らかにする。分析を基に課題を共有し、学年や教科の指導の改善を図る。事前、事後の取組を充実させ、課題の克服に努める。</p> <p>年間3回実施する実力テストについて、生徒の学力伸長状況を把握する。その結果をもとにした個別指導(短期入室、長期休業講座等)を行い、偏差値 60 以上の生徒を第1学年 70 人以上、第2学年 75 人以上、第3学年 80 人以上にする。</p>	<p>実力テストを年間3回実施し、結果を分析して生徒の学習習慣や確かな学力を身に付けさせるための課題を明らかにする。課題を克服させるために、学年や教科の指導の改善を図る。実力テスト・特別講座・学力補充・個人面談等を組織的に実施する。</p> <p>年間3回実施する実力テストについて、生徒の学力伸長状況を把握する。その結果をもとにした個別指導を行い、偏差値 60 以上の生徒を第1学年 70 人以上、第2学年 75 人以上、第3学年 80 人以上にする。</p>	<p>進路指導</p> <p>中1 ～ 中3</p>
	<p>SGH の取組と並行して、担任等による面接指導や個別指導を通して、教科バランスを意識した学習時間を増やす指導や個々の精神面でのフォローをしていく。特に、高2では英語・数学・国語の基礎力の完成や、理科、地歴・公民の自主的な学習の開始を意識させる。また、進路に関わる意識や情報を共有させることを通して連帯感を深め、集団としてより高い目標を目指す集団作りを進めるとともに、進路実現に向かう生徒個々の学習意欲の向上を図る。成績上位者に対しては、圧倒的な基礎・基本を土台とした上で応用力の育成に取り組むとともに高い志望をもたせる。成績不振者へは早朝・放課後等を利用し、成績不振者への対応を引き続き継続的・組織的に行う。</p>	<p>年間3回実施する実力テストについて、生徒の学力伸長状況を把握し、その結果をもとに個人面談等を行い、自律した学習者となるように育てる。また、計画的に領域別集会等を実施し、進路に関わる意識や情報を共有させることを通して連帯感を深め、集団としてより高い目標を目指す集団作りを進めるとともに、進路実現に向かう生徒個々の学習意欲の向上を図る。</p>	<p>進路指導</p> <p>高1 高2</p>
SGU等合格者が高い水準を達成している	<p>実力テスト分析会を年3回実施し、学年・教科と連携しながら、指導の充実を図る。またTKI指導に関する担当者会議を実施し、組織的に高い志望の実現に向け、教科面及びメンタル面で生徒を支援する。</p> <p>SGU等集会を高1では年間1回以上、高2では年間2回以上実施する。高3では、TKI、難関大、広大等の志望校を明確にした集会を定期的に実施し、SGU等志望者に対する生徒間の連帯感を持たせる。進路検討会議を3回以上実施する。SGU等(医学部医学科を含む)国公立大学合格者を 110 名以上(最難関大 20 名以上、広島大合格者を 50 名以上を含む)にする。</p>	<p>実力テスト分析会を年3回実施し、生徒の学力伸長状況を客観的に把握し、SGU等(医学部医学科を含む)国公立大学合格者 110 名以上(広島大学 50 名以上、最難関大学 20 名以上を含む)となるように、学年・教科と連携しながら、指導の充実を図る。入試結果を総括し、進路指導体制、データ分析体制、学習指導体制を組織的に見直すことにより、目標を達成する。</p> <p>高1・2ではSGU等集会を実施して、進路意識を高め、高3では、SGU等志望者に対する集会や進路検討会議を実施することにより、目標を達成する。</p>	<p>進路指導</p> <p>高3</p>
③ 全教職員の資質・能力向上を推進する学校 ～ 人材育成プログラムが機能している学校 ～			
教職員が「学びの変革」に向けた授業力向上に組織的に取り組んでいる	<p>引き続き1名あたり年間平均8時間以上の授業参観を実施する。授業改善に向けて、教科主任会議を中心に主体的かつ具体的な改善策の取組を進め、その成果と課題を検証する。定例化した教科会で、生徒の実態把握や指導方法等の共有を進める。また、各教科の特性に応じた具体的授業展開を教科内で共有する。</p>	<p>各教科が研究テーマを中心に、授業参観や授業づくりに係る研修等を実施し、「主体的な学びを促す高い水準の授業づくり」を進める。このために生徒を対象に実施する授業満足度調査結果や、グループインタビューのデータを活用し、数値に表れない実態を把握するとともに、個別の指導に役立てる。</p>	<p>指導教諭 教務 教科主任会</p>
教職員が学校活性化(業務改善)に向け組織的に取り組んでいる	<p>中学校・高等学校ともに土曜特別講座を全面的に廃止するなどして、時間外の労働の状況を改善する。また、IT 等を用いてタスク管理を進め、会議時間の短縮や会議の種類・回数を昨年度より減らす。</p>	<p>校務運営会議や主任を中心に、学校活性化(業務改善)に向け、見直しを持った業務遂行の徹底を行う。教務事務支援員の更なる活用により、印刷の効率化を徹底する。指導要録のデジタル化を検討する。取組計画による改善策を、全教職員一体となって実施し、子供と向き合う時間の確保に向け実効性のあるものとしていく。</p>	<p>校務運営 管理職</p>